考えられる方向性について

資料１７

地域アンケートの結果を参考に、現在考えられる方向性についてまとめたものです。

	方向性	○	△
①	八千代中学校及び広野小学校それぞれ存続	・地域に学校が残ること。 ・一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導を行えること。 ・学年間の縦の交流が生まれやすいこと。	・多様な考え方に触れる機会や、協力して取り組む経験が少ないこと。 ・複式学級であること。（児童生徒数が少ない現状が変わらないこと。） ・今後児童生徒数が減少し、小規模校化すると見込まれること。 ・教職員配置数が少ないこと。 ・部活動等に制約が生じること。
②	八千代中学校と広野小学校との統合	・地域に学校が残ること。 ・一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導を行えること。 ・学年間の縦の交流が生まれやすいこと。 ・小学校と中学校との交流が促進されること。	・多様な考え方に触れる機会や、協力して取り組む経験が少ないこと。 ・複式学級であること。（児童生徒数が少ない現状が変わらないこと。） ・今後児童生徒数が減少し、小規模校化すると見込まれること。 ・教職員配置数が少ないこと。 ・部活動等に制約が生じること。
③	八千代中学校と清川中学校の統合及び 広野小学校と清川小学校の統合	・学習活動や行事が充実し、多様な人間関係を築けること。 ・複式学級ではなくなること。（一部複式学級が残る。） ・通学距離延長の負担増が少ないこと。 （八千代中学校　⇒　清川中学校　約７分　６.６㎞）	・統合後も児童生徒数が少ないこと。（一部複式学級が残る。） ・今後児童生徒数が減少し、小規模校化すると見込まれること。
④	八千代中学校、清川中学校、広野小学校及び清川小学校の ４校の統合（義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校）	・学習活動や行事が充実し、多様な人間関係を築けること。 ・複式学級ではなくなること。（一部複式学級が残る。） ・通学距離延長の負担増が少ないこと。 （八千代中学校　⇒　清川中学校　約７分　６.６㎞） ・小学校と中学校との交流が促進されること。	・統合後も児童生徒数が少ないこと。（一部複式学級が残る。） ・今後児童生徒数が減少し、小規模校化すると見込まれること。 ・統合のための準備を要すること。 （義務教育学校又は小中一貫型小学校・中学校への移行に時間を要するため。）
⑤	八千代中学校と川西中学校の統合及び 広野小学校と川西小学校の統合	・学習活動や行事が充実し、多様な人間関係を築けること。 ・適正規模を確保できること。（複式学級なし） ・新たに開校する予定の川西地区の義務教育学校に通えること。	・現状では、教室に余裕がないこと。 ・通学距離延長の負担が生じること。 （八千代中学校　⇒　川西中学校　約１８分　１８.５㎞）
⑥	八千代中学校、川西中学校、広野小学校及び川西小学校の ４校の統合（義務教育学校）	・学習活動や行事が充実し、多様な人間関係を築けること。 ・適正規模を確保できること。（複式学級なし） ・新たに開校する予定の川西地区の義務教育学校に通えること。 ・小学校と中学校との交流が促進されること。	・通学距離延長の負担が生じること。 （八千代中学校　⇒　川西中学校　約１８分　１８.５㎞） ・川西地区の義務教育学校の開校時期が未定であること。

※　既に通学区域は広範囲であるため、通学区域の見直しによる課題解消は見込めないものと考えるもの

※　清川小学校においても特認入学者がいない状況であるため、小規模特認校となることによる課題解消は見込めないものと考えるもの